

はじめに	1
アンケート結果の特徴	2～3
私たちの要望	4
保護者へのアンケートの結果	5～15
医師・歯科医師へのアンケートの結果	16～19
長崎市・子どもの医療費助成制度についてのアンケート用紙	
保護者対象	20
医師・歯科医師対象	21
「乳幼児医療長崎ネット」の紹介	22





はじめに

平成17年、乳幼児医療長崎ネットが行ったアンケートには、県内約12,000人の子育て中の保護者にご協力を頂きました。その中で、多くの方々が償還払いの手続きの煩雑さを訴え、現物給付を切望していることが分かりました。乳幼児医療長崎ネットでは、こうした保護者の声を、県や県内の各自治体に届け、現物給付の実現を要望してまいりました。そうした中、平成19年度から、長崎市において県内ではじめて現物給付が実施されました。一方で、県は頑なに償還払いの維持を求め、現物給付を実施する自治体への県の補助金削減が予定されています。

長崎市が現物給付を実施し約1年が経過しましたが、私たちは、長崎市内の子育て中の保護者および小児医療に携わる医師・歯科医師が、今回の制度をどのように受け止めているのか？現物給付の運用に当たって問題は生じていないか？また、県の補助金削減に対してどのような意見をお持ちなのか？等をお聞きするため、地域を長崎市に限定しアンケート調査を行いました。

このアンケートには、約1ヶ月の間に5,154名もの保護者の方々から回答が寄せられ、今回も前回同様、大変な反響があり、乳幼児医療費の問題に対する関心の高さが伺われました。結果は、現物給付を歓迎する意見がほとんどで、この制度を是非継続して欲しい、少子化対策として子育てのしやすい「まちづくり」に真剣に取り組んでほしいという要望が多く寄せられました。また、大変貴重なご意見をたくさん頂きました。これらの意見を早急に関係する方々、諸機関へお届けしなければと考え結果をまとめました。子育て中の保護者の方々の方々の声に、真摯に耳を傾けていただければ幸いです。

アンケート結果の特徴

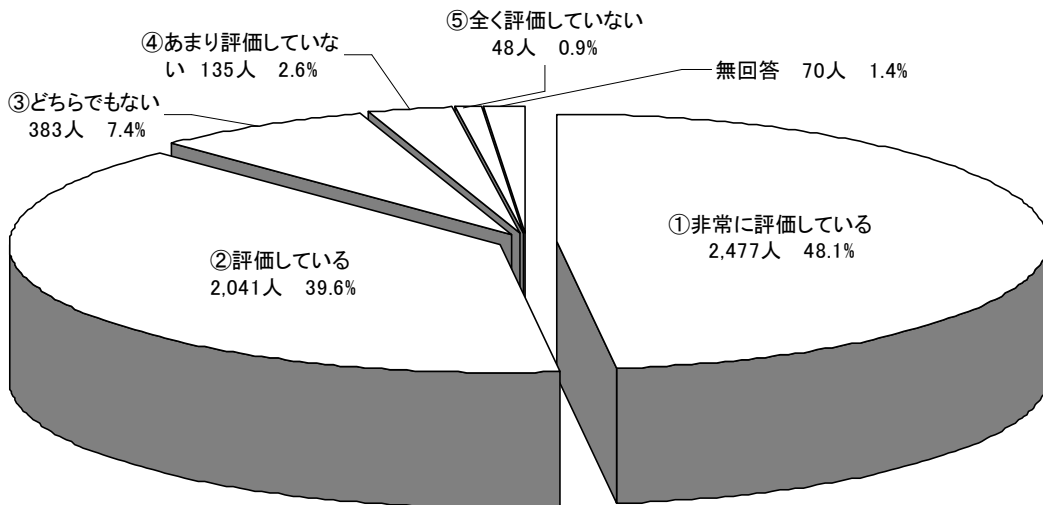
1、多くの保護者が現物給付を希望、長崎市の現物給付を歓迎

保護者アンケートで、8割以上の方が長崎市の「現物給付」実施を評価すると回答。評価しないと答えた方々についてもその理由を見ると、「現物給付」に反対する意見ではなく、負担額が高い、保険により現物給付にならない、大学病院や市外の病院では現物給付にならない、など制度の不十分さへの批判がほとんどであった。

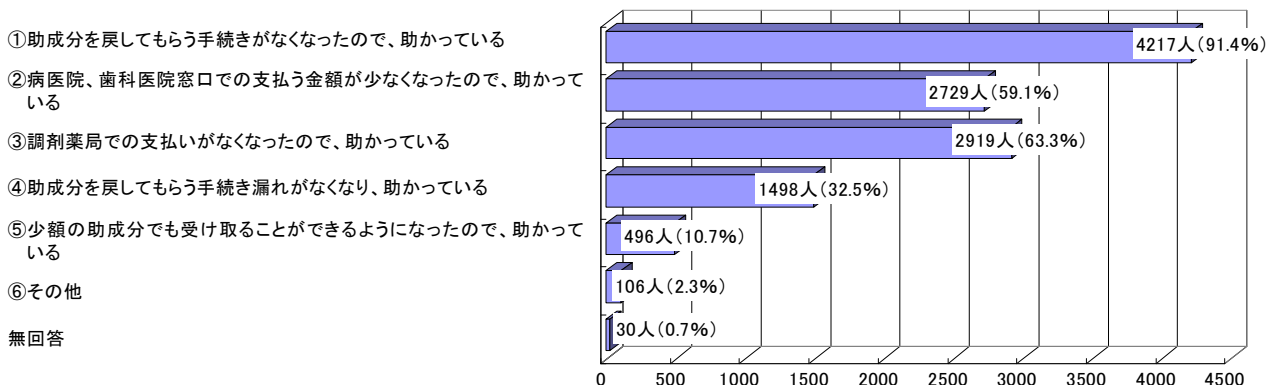
医師のアンケートでは、回答者の数が少ないが9割以上の方が評価すると回答。一方で、評価しないとし、1割程度の自己負担が妥当とする意見があった。

自由記載欄を見ると、平成17年のアンケート同様、子育て中の保護者にとって償還払いの手続きが大変であること、子供の数が多くなるほど医療費が負担になることなど、切実な意見が記載されている。

長崎市の「現物給付」についてどう思いますか？



現物給付制度を利用してどのように感じていますか？（強く感じていることから最大3つまで選択）

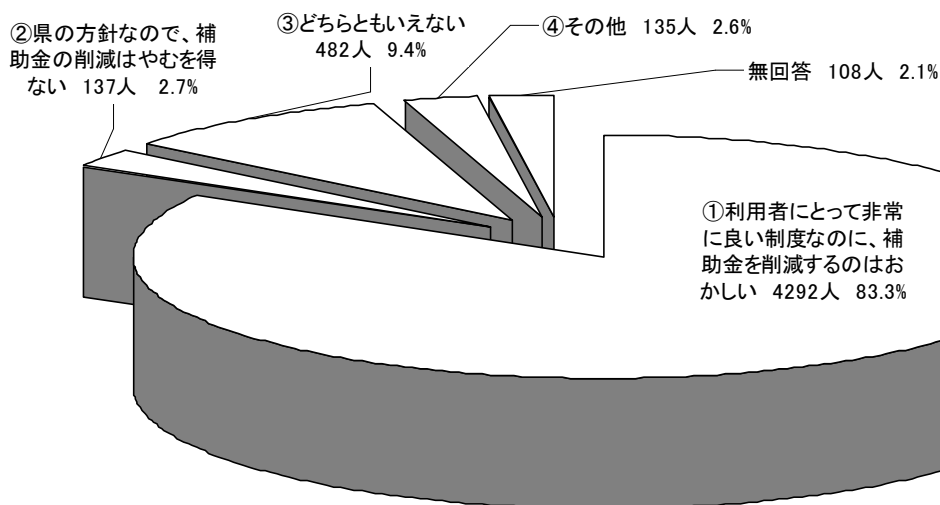


2、県の補助金減額について

保護者の8割以上が、現物給付は利用者にとって良い制度なのに、補助金を削減するのはおかしいと回答。自由記載を見ても「現物給付」が保護者の切なる願いであるのに何故県は補助金の削減をするのか理解できない、県は少子化対策にもっと力を入れ、医療費助成に取り組んで欲しいという意見が多く聞かれた。

尚、住む場所で助成の額や内容が異なるのはおかしい、国として助成制度を整備するべきだという意見が多かった。

県の「補助金削減」の方針に対してどう思いますか



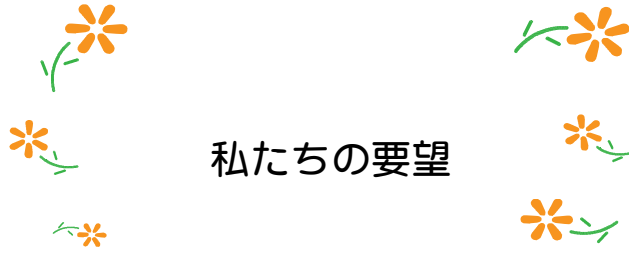
3、長崎市の制度実施に対する意見

今回、保護者から現物給付の実施についていくつかの指摘があった。

最も多かったのは、保険によって現物給付とならない場合があり全ての人が現物給付となるようにして欲しいという意見。その他、市外の医療機関や市内であっても大学病院などで現物給付にならないこと。「受給者証」を提示しないと現物給付されない（保険証や住所の確認で現物給付できないか？）、受給者証のサイズや紙質を改善して欲しいという意見等があった。

医師からは、医療事務用コンピューターがきちんと対応していれば大した作業が不要であるとしながらも、コンピューターの対応が不十分だったこと、自己負担額が給付の範囲を超えているかどうかの確認が面倒であることなどが指摘された。

その他、少数ではあるが、窓口負担が減るからと、時間外や休日などの受診が増えることや、医療費に対する意識が薄れることを懸念する意見も見られた。



私たちの要望

1、長崎県への要望

現物給付は、子育て中の保護者の切なる願いです。また、九州でも、県民の利便性などを考慮し、多くの県で現物給付を実施しています。

長崎県は、現物給付を実施する自治体への補助金削減の方針を改め、長崎市以外の自治体においても現物給付が実施できるよう、条件整備を検討してください。

当面、来年度からの補助金削減を撤回してください。

2、長崎市への要望

多くの保護者および医師・歯科医師はこの制度の導入を評価しています。

今後もこの制度を継続されるよう切に希望します。

また、保険の種類や医療機関によってこの制度が利用できず不便であるという指摘、受給者証が使いづらいという点など、いくつか問題点も指摘されています。今後これらについても検討され、制度の改善を図ってください。

3、乳幼児医療長崎ネットの取り組みとして

乳幼児医療費の問題について、保護者の関心の高さをあらためて痛感しています。今後も、保護者の方々と行政との橋渡しとしての役割を担い、子育てしやすい「まちづくり」のお手伝いができればと考えます。

また、アンケートでは「国として実施して欲しい」との声も多くありました。国に対しても制度創設を求めていきたいと思えます。

なお、現物給付で、時間外・休日の不要な受診が増え、小児科医への負担が増すのではないかと、財政難の折利用者の医療費への関心が薄れるのではないかと、等の指摘も聞かれました。この点についても、保護者の方々とともに、今後検討していければと考えています。

保護者へのアンケートの結果

(調査の対象および方法)

調査対象:長崎市内で子育て中の保護者。

調査期間:2008年1月17日～2月15日

調査方法:保育園・幼稚園・医療機関などに依頼した。回収は郵送・Fax・手渡しなどで行い、無記名方式とした。

回 答 数:14,700枚の調査用紙を配布し5,154名(2月21日まで到着した分)から回答を頂いた。

(結果)

1、回答者の年齢

	回答数(人)	%
～19歳	4	0.1%
20歳～24歳	138	2.7%
25歳～29歳	593	11.5%
30歳～34歳	1,614	31.3%
35歳～39歳	1,568	30.4%
40歳～44歳	611	11.9%
45歳～49歳	95	1.8%
50歳～	13	0.3%
不明	518	10.1%
合計	5,154	100.0%

表の通り、30歳～34歳が31.3%と一番多く、次に35歳～39歳30.4%、40歳～44歳11.9%、25歳～29歳11.5%であった。

2、お子さんの人数

	回答数(人)	%
1人	1,424	27.6%
2人	2,578	50.0%
3人	1,001	19.4%
4人	119	2.3%
5人	18	0.3%
6人以上	11	0.2%
不明	3	0.1%
合計	5,154	100.0%

2人が一番多く50.0%、次は1人27.6%、3人19.4%の順であった。5人以上6人以上という方も29名いらっしゃった。

3、長崎市が平成19(2007)年4月から「現物給付」になったことをご存知ですか？

	回答数(人)	%
①知っている	4,951	96.1%
②知らない	179	3.5%
無回答	24	0.5%
合計	5,154	100.0%

知っているが96.1%、ほとんどの方が知っていると回答。

4、長崎市の「現物給付」についてどう思いますか？

	回答数(人)	%
①非常に評価している	2,477	48.1%
②評価している	2,041	39.6%
③どちらでもない	383	7.4%
④あまり評価していない	135	2.6%
⑤全く評価していない	48	0.9%
無回答	70	1.4%
合計	5,154	100.0%

①非常に評価しているが48.1%、②評価しているが39.6%、あわせて87.7%の方が評価していると回答。一方で、④あまり評価していないが2.6%、⑤全く評価していないが0.9%みられた。

④⑤の評価していないと回答した方の理由を聞いたところ、

1、他県と比較して助成額が少ない。2、公務員共済や教職員共済のため現物給付対象外となり現物給付が受けられない。3、長崎市以外の医療機関で通用しない、または市内であっても大学病院など一部の医療機関で使えない等の不便さがある。

その他、対象年齢が低すぎる（小学校低学年または小学校卒業まで）、制度の実施について十分な説明がなかった…など、現物給付の実施を評価しながらも内容の不備を訴えるものが多かった。

一方で、窓口負担が減ると夜間や休日当番医を受診する人が増え本当に急を要する人が迷惑する、治療に要した医療費の額が分からなくなる、などの意見も寄せられた。

5、他の自治体での実施についてどう思いますか？（複数回答可）

	回答数(人)	%
①他の市町村でも実施して欲しい	1,526	29.6%
②長崎県全域で実施して欲しい	1,348	26.2%
③国として実施して欲しい	2,582	50.1%
④特に実施して欲しいとは思わない	106	2.1%
⑤その他	121	2.3%
無回答	104	2.0%

③国として実施して欲しいが一番多く50.1%。次は①他の市町村でも実施して欲しい29.6%、3番目は②長崎県全域で実施して欲しい26.2%。「特に実施して欲しいとは思わない」はわずか2.1%であった。

⑤のその他の意見として、「保険（公務員・教員共済等）によっては対象外となるため全員に平等に実施して欲しい」「無料化にして欲しい」「全国统一した制度にして欲しい」等の記載が見られた。

6、「福祉医療費受給者証」（医療費助成制度の対象者に発行）を持っていますか？

	回答数(人)	%
①持っている	4,931	95.7%
②持っていない	205	4.0%
無回答	18	0.3%
合計	5,154	100.0%

95.7%の方が持っていると回答した。

7、「現物給付」を利用して受診されたことがありますか？

	回答数(人)	%
①受診したことがある	4,614	93.6%
②受診したことがない	288	5.8%
無回答	29	0.6%
合計	4,931	100.0%

この設問は、問6で「①（福祉医療費受給者証を）持っている」と回答した4,931名に対して聞いた。①受診したことがあると答えた人は93.6%。②受診したことがないは5.8%であった。

8、(1)平成19(2007)年4～12月に受診した日数はおよそ何日ですか？

	1人目		2人目	
	回答数(人)	%	回答数(人)	%
①1～2日	406	8.8%	180	9.2%
②3～5日	1,030	22.3%	392	20.1%
③6～10日	1,270	27.5%	498	25.6%
④11～20日	1,076	23.3%	521	26.7%
⑤21日以上	557	12.1%	357	18.3%
無回答	275	6.0%	0	0.0%
合計	4,614	100.0%	1,948	100.0%

この設問は、問7で「①受診したことがある」と回答した4,614名に聞いた。
1人目でみると、③6～10日が一番多く27.5%、次に④11～20日23.3%、3番目が②3～5日22.3%。21日以上も12.1%見られた。

2人目でみると、④11～20日が一番多く26.7%、次は③6～10日25.6%、3番目は②3～5日20.1%であった。また、21日以上も18.3%見られた。

9、(2)現物給付制度を利用してどのように感じていますか？(強く感じていることから最大3つまでを選択)

	回答数(人)	%
①助成分を戻してもらう手続きがなくなったので、助かっている	4,217	91.4%
②病医院、歯科医院窓口での支払う金額が少なくなったので、助かっている	2,729	59.1%
③調剤薬局での支払いがなくなったので、助かっている	2,919	63.3%
④助成分を戻してもらう手続き漏れがなくなり、助かっている	1,498	32.5%
⑤少額の助成分でも受け取ることができるようになったので、助かっている	496	10.7%
⑥その他	106	2.3%
無回答	30	0.7%

現物給付制度を利用した印象としては、①助成分を戻してもらう手続きがなくなったので助かっているが91.4%と一番多く、手続きの軽減を評価する意見が圧倒的に多かった。次は③調剤薬局での支払いがなくなったので助かっている63.3%、3番目は②病医院、歯科医院窓口での支払う金額が少なくなったので助かっている59.1%、と負担の軽減を評価する意見が多かった。

なお、⑥その他の意見として寄せられたのは、保険の種類（教員または公務員共済等）により現物給付となっていないため従来どおりの償還払いとなっていること、長崎市以外の医療機関では使えないこと、「受給者証」を提示しないと現物給付とならない、等への不満であった。

10、県の「補助金減額」方針（現物給付制度やそれに近い制度を採用する自治体への補助金減額）に対してどう思いますか？

	回答数（人）	%
①利用者にとって非常に良い制度なのに、補助金を削減するのはおかしい	4,292	83.3%
②県の方針なので、補助金の削減はやむを得ない	137	2.7%
③どちらともいえない	482	9.4%
④その他	135	2.6%
無回答	108	2.1%
合計	5,154	100.0%

県の「補助金減額」方針に対する意見は、①利用者にとって良い制度なのに、補助金を削減するのはおかしいという方が83.3%と圧倒的に多かった。②県の方針なので、補助金の削減はやむを得ないが2.7%、③どちらでもないが9.4%であった。

その他の欄に書かれていた意見は、多くは「どうして、現物給付にすると県が補助金を減額するのか分からない」「制度の事や減額の理由など、詳しいことが分からない」「減額された分を何に使うのか」などの意見が見られた。

10、自由記載

大変多くのご意見を頂きました。ここでは、そのいくつか特徴的な意見を一部紹介したいと思います。どれも貴重なご意見です。ぜひ全ての意見（別冊）に目を通していただければと思います。

☆☆☆ 現物給付制度実施を評価する意見 ☆☆☆

- *以前の領収書をそえて提出する制度は、提出する時に記入して出す書類にかかる費用がもったいないのでは、と思っていました。「現物給付制度」は、家計にすごく助かる制度だと思っています。
- *「申請すれば返ってくる」というただそれだけのカンタンなことも、小さな子どもを抱っこして役所の窓口に行き、バタバタする子どもをなだめながら手続きする「労力」を考えると、暗い気持ちになるので、「現物給付」以前のものは申請しないままだったこともありました。とても助かっています。ぜひ続けてほしいです。
- *現物給付制度がはじまる前、一度も申請をしたことがありませんでした。手続きに要する時間があれば、少しでも休みたい、そう思う程、育児は大変です。決して生活が楽なわけではありません。現物給付になり、本当に助かっています。ありがとうございます。これからも余裕のある子育てができるようサービスを拡大して行ってほしいです。
- *子どもを連れて支給申請に行くのは大変でした。赤ちゃんの頃は、着替え等、大きな荷物と赤ちゃんをかかえての外出自体が大変。少し大きくなると、脱走したがる子どもを足の間にはさんで窓口へ。訂正する様に言われても、その場で書けるわけもなく、一度家へ持ち帰っていました。郵送するにしても、何枚もまとめて申請するので、送料がいくらかかるか、郵便局に持ち込まないと分からなかったりします。これらがいやで申請しない人もいたと思います。補助金カットは、この申請もれを期待できなくなったからでしょうか？
- *「現物給付制度」が導入され、大変助かっています。以前は一月ごとにかかった病院、薬局の数分請求用紙を記入しなければならないし、提出が郵送で良いとなっても、結局用紙をもらいに行かねばならなかったり、特に、乳幼児期は病院にかかる回数も多いので、大変手間でした。仕事を持っている母親は強く感謝していると思います。ありがとうございました。この制度が長崎県全域、全国へ広がることを願っています。
- *現物給付は子どもを産んでからずっと希望していました。やっと他の県並みのサービスになったと思っ

ています。以前は市役所や支所、郵送で送って、後で振込戻りでしたが、育児中に夜中に領収書を区分けしたり、貼ったりして持って行くのは本当に大変でした。しかも市役所の計算間違いで、戻ってくる金額が少なかったりしていました。このまま現物給付して下さい!!

- *子育ては忙しくて、書類を書くのも大変だし、市役所にもわざわざ出かけなくてよくなったので、良かったです。小児科にかかる時も急だったりして、窓口でいくら分からない時は、手持ちのお金で足りるか不安だったりしたけど、今は800円さえあれば、支払いもできるので、本当に助かっています。
- *現物給付制度が実施されて、実際に利用し、想像以上に便利だと感じました。要望の強いことに対して補助金を削減されるというのは悲しい話です。今後少しでも子育てしやすい環境が整っていくように願います。
- *保護者側の利便性が高く、以前に比べ心理的負担（手続きもれなど）が軽減された。これは育児における負担軽減の一部分で、小さいものかもしれないが、こういった工夫を重ねることが少子化の歯止めにもつながると思う。
- *子育てをしている親や仕事を持っていると、手続きに行くのがとても困難です。書類の記入や、書類提出するのも時間がかかり、とても大変です。昨年から制度が変わりとても助かっています。長崎県内が統一されて実施されることを願います。
- *現物給付制度になり、助成分を戻してもらう手続きがなくなり、大変助かっています。仕事をしていなかなか支所へ行く時間がないので。また、手続き書類を書く時間も削られ、子どもとの時間も増え、大変嬉しく思います。
- *長崎市で「現物給付」が始まり、とても助かっています。わが家には慢性疾患の子がいるので、病院代、薬代は大きな出費なのです。また「償還払い」の際は、支所や市役所への窓口提出なので、別途駐車場代までかかり、とても残念な思いがしていました。誰でも好き好んで病気になる訳ではありません。安心して医療が受けられるよう（特に将来ある幼児）、お願いしたいものです。
- *現物給付が始まってから払い戻しの手続きが無くなり、とても助かっています（事務所も遠く郵送だったので）。十分、満足しています。
- *就学前の子どもを持つ親の間では、良い制度で助かるということで喜んでいますが、病院にかかる際に財布の中身を心配しないですみます。特に薬代はいくらかかるのかが読めません。急な対応にも安心できます。わずらわしい手続きも減り、仕事をもっている私にはすごく助かります。良い制度だと実感しています。
- *現物給付制度になる前は、助成分を戻してもらう手続きが面倒であるし、分かりにくく、一度も手続きをしたことがありませんでした。現物給付制度になり、助かっています。小さな子どもがいると病院に通うことも多く、その場で…というのが、保護者としては便利で、現物給付制度になり本当に良かったです。
- *市の補助がカットされるにもかかわらず、私達、親の事を第一に考え、現物給付制度を実施して下さった市にとっても感謝しています。以前は手続きが面倒で負担に感じていました。現在はとても楽です。ありがとうございました。
- *日々の生活に追われていると、助成分の戻しの手続きはなかなかできません。その点、現物給付は非常に助かります。病院の窓口に行って、支払いをするたびに長崎市に住んでいることに感謝しています。県の減額方針は知りませんでした。驚きです。少子化対策を唱えるのであれば、国で考えていただきたい、良い方法だと思います。
- *これまでの紙での提出はとても面倒で、こんなものに用紙を使って、紙代がもったいなく無駄だなと思



っていたので、今の方が良いです。物価も上がり、共働きでも生活は大変な時代です。子ども達には安心して医療制度が受けられるよう、取り組みを続けていって欲しいです。

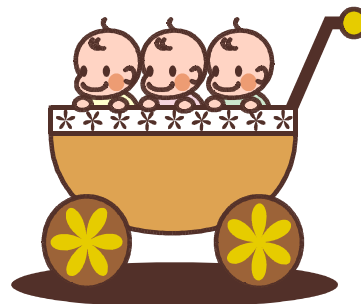
- *子どもが多い家庭には、大変助かっております。小児科、歯科にお世話になる機会が多いので、今後も続けて頂ければありがたい。子どもが小さい家庭にとって、以前の助成分を戻してもらう手続き、領収書等の保管、書類提出と面倒でした。今の様に簡素化して頂けたら、子育てにバタバタしている母にとって有り難かったです。小さいお子様を持つ家庭にとって、病院にお世話になる機会が多いので、是非“現物給付”を続けて頂きたいです。

★★★ 長崎県の対応、補助率削減に対する意見 ★★★

- *県が補助金をカットするのはおかしいと思う。こころネっこ運動とか言って有名人ばかりを使ってCMだけして実になることはなにもしていない。CM費を補助金にまわせば良いと思う。
- *小さい子がいると償還払いの手続きは大変です。少額だったら駐車場代を払ってまで手続きするのはためらわれます。現物給付制度はとても良いと思うのですがどんな理由で1億円の補助金カットがなされるのか知りたいです。これからの少子化時代に子どもを沢山育てたくても経済的にままなりません。子育てに（教育等）かける補助金はカットしないで下さい。
- *少子化対策を何と思っているのか疑問に思えます。私共は学校共済ですので、現物給付制度の対象外です。しかし、長崎市がこのような制度を作ってくれたことに感謝しています。市の努力が伝わってきます。しかしながら県、特に金子知事の発言には憤りを感じます。新幹線もいいですが、もっと足元を見た県政に取り組んで欲しいです。
- *少子化の時代、一生懸命に3人の子どもを育てています。現物給付制度になり、本当に助かっていたので、補助金を減らすなんて考えられません。経済的な理由で子どもを産めない方もたくさんいます。実際、私も4人目を欲しいと思った事がありますが、経済的な理由であきらめました。このままでは少子化はどんどん深刻になるのではないのでしょうか？
- *県は少子化対策に本気で取り組むのであれば、この制度は県内全域で実施するべきで、補助金カットなどという事は非常に理解し難いです。
- *医療費の助成は長続きをする、しないにかかわらず、対象者は全て給付金を受けるのが当然のことではないのでしょうか。「償還払い」ではもらえずに、または制度を知らずに損している方がいると思います。「現物給付」で給付が増えているのなら、それだけの人が今まで手続きをせずに損していたことにならないのでしょうか。当然のことに対しての「補助金」削減は理解できず、反対です。
- *県は新幹線のための予算をたくさん取っているようだが、新幹線が長崎に来たところでそれほど便利になるとも、利用者が増えるとも思えない。諫早干拓にかかる大金も税金の無駄使いとしか思えない。新幹線や諫早干拓にかかる税金は子どもの医療費にまわすべきです。子ども達には未来があるから…。私たち大人は今だけを見ずに未来を想定して行動するべきです。新幹線より子ども達の命を守るべきではないのでしょうか。平和を発信する長崎だからこそ「命」を最初に考えて欲しい。
- *少子化が問題視されている時期に、前向きな対応で、非常に評価できることと思います。県の対応には疑問だらけで、納得できないことがあり、市の方針に影響がでるのが心配です。
- *子育て支援とは名ばかりと県の方針には幻滅してしまいます。共働き世帯が多い中、長崎市の「現物給付制度」は世の中の流れに添ったものであり、手続きの手間も省けて非常に助かっています（育児＋仕事は忙しい）。少子化対策と県の方針は逆行していると考えます。
- *1億円カットはどちらに移行されるのでしょうか。県に説明をお願いします。
- *子育てしやすい環境を整えて欲しい。子どもの医療費などを削減対象とすることなど、納得がいかない。現

物給付制度を長崎市以外の市町村でも早く実施して欲しい。

- *とても便利に感じていますが、近隣の時津にかかっているため、その分は今まで通り助成の手続きが必要で、とても不便に感じています。県全体で実施されることを希望します。「補助金減額」などもってのほかです！
- *補助金を減額するというのはとても考えられません。現物給付で手間が省けるのは大変ありがたい。それなのになぜ補助金削減？償還払いで手続きをされない方の医療費はお知らせせずにそのまま？それを見込んでの制度だったのでしたらとても残念です。
- *私の実家がある市（県外）は、子どもの医療費はカードの提示で全額無料になるそうです。子どもの医療費は必要なものです。安心して病院にかかれる制度を国として実施して欲しいです。地域格差があるのはおかしいと思います。また、以前知事が「医療費を申請しないのは知らないからでしょう」という趣旨の発言をしているのをTVで見ました。これは現状を全く知らない人の発言です。働く親は昼間、役所に申請に行くなどできるわけがありません。もっと利用者の声、現場の声を聞いていただいて、本当に必要なことに税金を使って欲しい。
- *以前は書類を書く時間や提出する手間を考えると、少しの金額はあきらめたりしていましたが（金額が変わるので分からなくなることもあり）。今はとても助かっています。子どもの数は減っているはずなので、補助金減額はおかしいと思います。県全体の財政支出の見直しをするべきだと思います。
- *補助金削減の意図、説明が不足すぎる。手続き（現物給付でない時）をしない県民には医療費の返金は必要ない、と頭から押しつける県の方針にはとても不満を感じます。
- *現物給付になり、とても助かっています。どうして補助金が減額されるのかわかりません。これだけ子育て支援をと言われているのに?? 長崎市が現物支給にするにあたり、逆に費用がかかったのではないのでしょうか。補助金を増やす方が本当ではないのでしょうか？ 現物給付の手続きにして下さり、ありがとうございます。
- *新幹線の設置をするのに多額の予算を使うより、子どもの医療費の充実をさせて欲しい。
- *現物給付制度になり、医療機関に書類を書いてもらったり、市役所に行ったりする手間が省けて、とても助かっています。でも子どもが3人いると、複数の科に受診することも多く、医療費がそれでも多い時があります。これ以上医療費が増えると大変なので、補助は絶対に減らさないで欲しいです。
- *利用者にとって非常に良い制度なのに補助金を削減するのはなぜでしょう。便利になった＝余裕があるという判断なのですか。これでは現物給付の制度は広まらないですよ。現物給付制度は本当に便利になり、助かっています。正直なところ、800円の自己負担もなくなってくれたらいいのになと思います。医療費は無料という自治体も多くありますよね。財源が厳しいのはわかりますが、少しでも子どものためにいい制度を作ってもらいたいと思います。
- *この制度が始まる前からテレビで県の対応についても知りました。少子化・子育て支援とはいっても県の対応は冷たい。新幹線にまわすお金はおしまないくせにと県政への不満を感じました。長崎市はそれでもこの制度を始めたことに対しては、市民の立場としては勇気あることだったと評価しています。
- *大変良い制度だと思うのに、補助金がカットされると知って残念です。私たちが手続きを忘れて、面倒でやらないことが計算されているのではと思います。すぐくずる事だと思います。
- *現在、少子化で子育てに対する支援活動の推進がなされている中、なぜ「補助金」を減額するのか全く理解できません。世論に逆行していると思います。今は子育てがいろいろな意味で大変な時代なのに最も頼りにすべき公的機関がそのようなことをするのは、精神的にもつらい気がしました。
- *現物給付になって、とても助かっていたのに、ますます子育てしにくい県にしようとしているんじゃないか



としか思えません。子育て真っ最中の私達の声を無視しないでほしいです。

- * 県側のバカな方針はネットで見てて知ってました。子育てを知らない人たちで反対しているんでしょうね!?! 毎日乳幼児を育てるのも大変なのに、病気になる家事もできず看病続き。やっと元気になっても山のような家事で領収書がどこにいったのかもわからないくらいです。手続きの用紙を書く暇も、持って行く暇もありません!! 昨年4月からどれだけホッとしたことか。
- * 「補助金」を減額する県の方針の説明がほしい。小さい子どもを抱えていると都度の手続きは結構大変です。申請書は市役所、支所へ取りに行くか郵送依頼をしなければなりませんし。ですから現在の現物給付制度は大変助かっております。
- * 長崎市以外の病院に受診した時は、助成分を戻してもらう手続きをしないとならないため、県全域で実施してほしいと思う。

★★★ 乳幼児医療費助成制度の充実・拡大を求める意見 ★★★

- * 他県（一部）では、18歳まで助成制度の適用、とされているそうですが、長崎県内でも18歳まで（医療費助成制度）補助金の給付を実施してほしいと思う。複数の病院へ通院を毎月（二人とも）しているので、自己負担分の引き下げを強く希望する。
- * 可能であれば1カ所ではなく、何カ所受診しても1ヶ月1,600円限度であれば良いです。少子化というのであれば、もう少し子どもにかかる金額を、もう少し助成金etc考えて欲しいです。
- * 1ヶ月1,600円まで、となっているが、いっそのこと無料にしてほしい。無駄に使われている税金があるのであれば、医療費にまわしてほしい。小学校就学前の子どもだけなので、小学校の子ども対象にしてほしい。
- * 長崎は子どもの医療費助成金の自己負担額が高い。他の県では無料という自治体も多い。病院では診察代が1回につき800円未満のことも多く、実際に助成してもらっている金額は低いと思う。子どもは具合が悪いけど、病院には連れて行かない、という訳にはいかないの、せめてもう少し自己負担額を少なくしてほしい。
- * 現代社会は働く母親が多いので、現物給付は絶対に続けてほしいと思う。また、医療費助成制度は小学校就学前までとなっているが、子どもは小学校入学後のけがや病気も多いので、小学生の間は助成してほしい。
- * 他県では診察代も無料みたいなので、無料とまでは言わないが、出来ればどの科に行っても全体で月1,600円にしてほしい。
- * 現物給付制度になったのはとても嬉しいですが、対象が小学校入学前の子どもなのに納得がいきません。小学生になっても病院に通うことが多くあるので、小学生までを対象にしてほしいです。他県では、全額支給される場所もあると聞きますので、長崎もそうしてほしいです。
- * 兄弟が多い家庭への補助がよくなると少子化対策にも良いと思う（3人目は無料とか…）。病院の種類を分けず、種類が異なる病院へ通院しても補助を認めてほしい。
- * 初回のみ無料にしたり、義務教育の年齢の子どもまで現物給付制度をしてほしい。小学校就学前ではなく、最低でも小学校の間だけでも延長してほしい。
- * 現物給付制度になって、窓口で支払う額が少なくなったので、前よりは助かっているが、そもそも1回につき800円も負担することが額が多いように思う。なかなか病院へ通うことの大変さに、あまり変わりがないので、他のところでのサービスがあったらうれしいです。
- * 自己負担額1回につきMAX800円、上限1,600円ですが、これは大体月2回の通院での負担金で、3回目からは負担なしといった印象です。しかし、一般的に月3回も病院へは行かないし、大きな



病院では現物給付のシステムを採っていないとか。これを聞くとあまり意味がないような機がします。月に何度も受診が必要なお子さんをお持ちの方などは大変だと思います。確かに今までより便利になりましたし、助かっていますが、ぜひぜひ無料にさせていただきたいと思います。少子化にも役立つことにもなると思います。

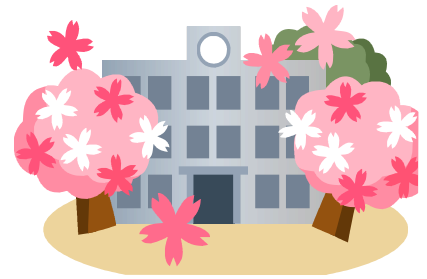
- *少子化対策や子育て支援と言われる今、小学校の間までは助成が必要と思う。小学校になったからと言って病気等が無くなるわけではない！ やっと都心部のように現物給付になったと思ったら、削減とは、考えられない。
- *他県は子どもの医療費は完全無料のところが多いのに、1,800円/月は支払うのに高いと思う。
- *申請する手間が無くなったので、とても助かります。ありがとうございました。ただ、医療費の全額免除という県・都も全国にあるので、長崎県もそうして欲しいです。免除の年齢も広げて欲しいです。補助金の減額なんて、論外です。
- *「現物給付」になり、とても助かりました。今後は就学前までではなく、中学校入学前まで延長できるように努力していただきたいです。
- *子どもが少ないのに、もう少し家庭の負担を減らして欲しい。年齢を上げるか、全額助成して欲しい。
- *小学校に入学してから病気やケガが多くなるので、せめて義務教育中は助成して欲しいです。
- *昔よりは福祉はよくなっていますが、他の県に比べてまだまだ遅れていると思います。一つの医療機関につき、個人負担分は最大1,600円までですが、小さい子どもはよく病気になりますし、同時に2,3ヶ所の医療機関に通うケースも多々あります。毎月の受診料は結構な負担となりますので、もっと個人負担額を減らして欲しいです。
- *今後、就学前までとかではなく、小学校卒業までに期間を伸ばして欲しいです。こういうことに使っていたくために税金を払っているんですから。ぜひ、ご検討下さい！！
- *医療費の自己負担額が高いと思う。助成する子どもの年齢についても、もっと引き上げるべきだと思う。
- *制度が出来て良かったと思いますが、他県では1病院での支払いが300円のみだったので、その頃に比べると今は高いように思います。少しずつ子育てしやすく変わってきているとは思いますが、子どもも増えても育てていきやすくなるように経済的に優遇されると良いと思います。
- *今までは金銭的に病院に行けない時もあったので、大変助かっています。小学校まで対応してもらえれば、もっと助かります。
- *6才の子どもが入学と同時に福祉医療費の対象外となりますが、2才の頃よりずっとぜんそくの薬を飲み続けています。4月からも引き続きの治療となります。このように長期にわたる場合は、医師の証明があれば、福祉医療が受けられるようにして頂きたいです。
- *現物給付制度が始まり、病気をしがちな小さい子どもを持つ親としては、とても助かるようになりました。でも、就学前までということで、できれば小学校時代までを対象にして頂くともっと“助かるなあ”と思います。
- *子どもの医療費助成制度の年齢をあげてほしい。例えば、10才までとか…。集団で生活するのでやはり病気（かぜ、インフルエンザ）になりやすい。まだ、低学年は体力が少ないので考えてほしいです。
- *一医院で1ヶ月1,600円で、例えば、内科、外科、皮膚科等にかかると、1ヶ月の医療費は多くなり、それが兄弟分となると高額になる。今までの差引額と変わらない。少子化と言うが、子どもをたくさん産める環境を作ってほしい。税金ばかり値上げしないでほしい。
- *現物給付制度は、手続きなどしなくていいので助かります。年齢が就学前までは、短すぎると思います。

★★★ 長崎市現物給付制度への改善要望 ★★★

- *「福祉医療費受給者証」を忘れてしまった場合、従来通りの手続きをせねばならず、面倒でした。保険証等

で住所が確認出来たら、「現物給付制度」が使えるようにしてほしい。受給者証の大きさが中途半端な大きさを携帯しづらいです。

- *全員が「現物給付制度」を活用できるようにしていただけると助かります。
- *ピンク色の紙のカバーか何かあるとよいと思った。アレルギー等でよく使う者にはボロボロになりやすく、紙はやぶれやすいし、文字もうすくなってきた。
- *保険証と一緒にあったら良いと思うのですが…。別々に持ち歩くのは忘れがちで、結局使用しないで終わります。
- *福祉医療費受給者証はもちろん、保険証まで財布に入るカード型にしてほしい。子どもを抱っこして、受付等する際、バックの中をあれこれ探したり、提示後放り込むように（子どもを抱っこしてるので）しまうから使いにくい。
- *福祉医療費受給者証を保険証のサイズで破れにくい物にして欲しいです。
- *ピンクの紙を財布に入れやすいように、車の免許証のように固くコンパクトにして欲しいです。今のままだと持ち歩きにくいし、無くしそうです。
- *受給者証を毎回見せなくても、同じような制度で行って欲しい。
- *福祉医療費受給者証の大きさが保険証と同じカードの大きさと良いと思う。子どもが病気で病院にかかる時はバタバタしている事が多いので、ピンクの紙だけ保管場所を別にしてしまうと忘れてしまったり、無くしてしまったりしそうです。カード型になることを祈っています。
- *大学病院での使用が不可能だったが、その理由が知りたい。他にも使用不可の所があるのか？
- *この制度を知ってから、今まで面倒だった書類書きが無くなると喜んでいたら、地方職員共済組合は計算方法が異なるため従前どおりと知り、ショックでした。皆、この制度が使用できれば便利です。
- *「福祉医療費受給者証」が紙でできていて、大きさも大きいので、持ち歩くのに不便を感じる。折り曲げて持ち歩くと、小学校就学前まで状態が持つが不安です。子どもの数に応じて、もう少し助成してもらえると助かります。
- *この制度ができて大変助かっているが、従来どおりのシステムである病院があるのはどうしてでしょうか？我が子は長崎大学病院に通院することが多く、ここも現物給付制度が実施されれば助かるのにと、よく思います。
- *受給者証をカードサイズか保険証サイズにしてもらわないと携帯するのが不便。現在折り曲げてサイフに入れているので印字が消えかけている。
- *福祉医療費受給者証の提示を毎回ではなく、月に1回くらいにして欲しい。
- *長崎大学病院でも「現物給付システム」をとって欲しいです。
- *長崎市に住民票を持った段階で自動的に対象年齢に受給者証が手元に届くようにして欲しい。二度手間だし、制度を知らないまま手続きしていない方も少なからずいると思うので。
- *教職員なので従来型で毎月窓口で申請をしている。支給方法が他とちがうので仕方ないと思うが私達も「現物給付制度」になったらいいのと思う。
- *受給者証をもっとコンパクトにしてほしい。
- *ピンクの紙が汚れやすいのでカードタイプにしてほしい。子どもがさわったり、汚したりして消えかかっている。
- *原爆病院では使えなかった、どうしてですか？（ケガして病院に行ったら5,000円とられた）
- *長大に入院した時に現物給付制度が使用できず困った。どこの病院でも使用できるようになってほしい。
- *福祉医療費受給者証のピンクカードを月初めに病院に出さないといけませんが、忘れた人は現物給付制度を利



- 用できないのはなぜですか？住所と年齢が分かれば利用できるようにして欲しいです。
- *受給者証のサイズが小さければ財布に入れられて、忘れることも減ると思いました。
 - *もう少し「福祉医療費受給者証」を小さく（例えばキャッシュカードくらい）してほしい。ちょっと持ち運びがしにくいので。
 - *最近入院して大学病院で手術を受けましたが、この制度を導入していないので高額な請求が来ました。後日戻ってくるとはいえ、一時的に現金をたくさん用意するのは困難です。実際、どう支払をしようかと悩んでいるところです。何故、市民病院では導入されているのに、大学病院が導入されていないのか不思議に思いました。
 - *県から補助金を減額されても、引き続き現物給付を実施して欲しい。また、市内で現物給付制度のシステムをとっていない所は、早くシステムを行って欲しい。
-

★★★ その他 ★★★

- *小学校入学までということですが、息子は4月1日生まれで、5歳までしかこの助成を受けられませんでした。（下の子は7月生まれで7歳近くまで助成を受けられます）年齢で助成制限を決めるという事は不可能でしょうか。
- *市町村レベルでなく、国で統一して何歳までは無料にするなど、同じ制度にしてほしい（県によっては、窓口支払いが一切ない所もあると聞いているので…）。
- *「現物給付制度」が小学校入学前までと決まっているので、4月生まれと3月生まれに適応の差が1年あるのがおかしいと思っています。3月生まれの子（生まれ月が後の子）が損しているように感じます。
- *インフルエンザの予防接種など、1人につきは高額でないにしても、子どもの人数に応じて金額がかかるし、2回接種なので、もう少し安くできないものでしょうか。
- *小学校就学前までとなっていますが、何歳までと決めて欲しい。うちの子は早生まれなので4月生まれの人と比べると約1年間の差があるので。
- *任意の予防接種の中でも、インフルエンザなど、必要性が高いものについては助成していただけると助かります。
- *母子家庭の母の分の医療費助成も現物給付にして欲しい。
- *福岡市など他県自治体では、乳幼児医療費は全額自治体が負担し、受診料無料の所もある。国全体でそういう制度を統一して欲しい。
- *かかりつけの病院では「福祉医療費受給者証」を月に1回見せると、たいていは給付制度を取り入れてくれますが、眼科など始めて行くところでは受付（支払い時）に何も言ってくれません。私も悪かったのですが、病院側も知っているものと思い何も言わなかったのですが、一言お互いに言い合った方がよいと思います。
- *少子化対策という観点では、小児医療費の現物給付による保護者の負担軽減ということでは納得していますが、私のように母子家庭で障害者をもつ世帯でも、助成又は割り戻しの請求の手続きも大変です。現物給付制度をどんどん拡大させて欲しいです。
- *今の制度については良いと思います。今後、予防接種（インフルエンザ、水痘、おたふく風邪）などについても、はしかなどのように、国で認めて無料にして下さると、安心して子育てができると思います。

医師・歯科医師へのアンケートの結果

(調査の対象および方法)

調査対象:長崎市内の小児科標榜科、小児歯科標榜科、小児歯科臨床医会会員。

その他小児の受診が多いと思われる診療科(皮膚科、耳鼻咽喉科)。

調査期間:2008年1月17日～2月15日

調査方法:各医療機関へ郵送、回収は郵送・Fax・手渡しなどで行い、無記名方式とした。

回収率:190枚の調査用紙を配布し26名から回答を頂いた。(回収率:13.7%)

(結果)

1、主な診療科:

	回答数(人)	%
①小児科	12	46.2%
②小児歯科	5	19.2%
③皮膚科	4	15.4%
④耳鼻咽喉科	3	11.5%
⑤その他	2	7.7%
合計	26	100.0%

①小児科:12名、②小児歯科:5名、③皮膚科:4名、④耳鼻咽喉科:3名、⑤その他:2名。計26名から回答を頂いた。

2、「現物給付」を利用している保護者の反応をどう感じていますか?

	回答数(人)	%
①歓迎している	21	80.8%
②まあまあ歓迎している	2	7.7%
③反応はほとんどない	0	0.0%
④分からない	2	7.7%
無回答	1	3.8%
合計	26	100.0%

①歓迎している21名(80.8%)、②まあまあ歓迎している2名(7.7%)、③反応はほとんどない0名(0.0%)、④分からない2名(7.7%)、無回答1名(3.8%)。

23名(88.5%)の方が保護者は歓迎している、と回答している。

3、「現物給付」の導入で保護者はどういう点が助かっていると思われますか?(強く思われていることから最大3つまでを選択)

	回答数(人)	%
①助成分を戻してもらう手続きがなくなったこと	25	96.2%
②医療機関窓口で「自己負担金」だけを支払えば良くなったこと	21	80.8%
③調剤薬局での支払いがなくなったこと	10	38.5%
④申請漏れがなくなったこと	8	30.8%
⑤少額の助成分も受け取れるようになったこと	4	15.4%
⑥その他	0	0.0%

①助成分を戻してもらう手続きがなくなったことが一番多く25名(96.2%)、次に②医療機関窓口で「自己負担金」だけを支払えば良くなったこと21名(80.8%)、が多かった。

次が③調剤薬局での支払いがなくなったこと10名(38.5%)、④申請漏れがなくなったこと8名(30.8%)、⑤少額の助成分も受け取れるようになったこと4名(15.4%)であった。

4、「現物給付」の導入で、患者の受診に変化がありますか？

	回答数(人)	%
①ある	7	26.9%
②ない	19	73.1%
合計	26	100.0%

①あるが7名(26.9%)、②ないが19名(73.1%)であった。

①ある、の具体的な内容については、「病院(医院)が来やすくなったのか、少し患者が増えた気がする」「受診回数が増えた、受診者が増えた」「入院児の家族から、支払い分が少なくなり非常に助かったとの声を良く聞きます」「今の病気がしっかり治るまで受診してくれるようになりました」「受診しやすくなったとの声があります」というものであった。

5、「現物給付」の導入で、医療機関の事務負担(受付、請求など)はどうなりましたか？

	回答数(人)	%
①増えた	11	42.3%
②変わらない	12	46.2%
③減った	2	7.7%
無回答	1	3.8%
合計	26	100.0%

①増えたが11名(42.3%)、②変わらないが12名(46.2%)、③減ったが2名(7.7%)、無回答1名(3.8%)であった。

その内容は下記の通り。

①事務負担が増えた

- ・月末のレセプト(診療報酬明細書)を打ち出す時に、現物給付の対象者か対象外かを一人ずつ調べてレセコン(医療事務用コンピューター)へ手入力しないといけなくなった。
- ・レセコンが長崎方式に対応していないために、手作業になった。
- ・登録業務、後日持参による精算業務、レセプト修正業務
- ・レセプトを提出する前に現物給付の適応かどうか確認せねばならないので。受付や支払いの時は負担に思いませんが、レセプトの記入や請求は記入漏れがないようしっかり、確認しなければなりません。
- ・初診時に受給者証の提示がある場合は何ら問題はないが、受診後日、受給書証を提示された場合や、受診月中に提示がなく(すぐに持ってこられるとのことで、現物給付対象者として処理している方で)、レセコンが翌月に遅れる場合など、件数は少ないが、毎月数件みられる。
- ・レセコンの操作
- ・ひと月の上限が1,600円に満たない現物給付対象外の患者さんのレセプトは、単独で請求しなければならないので、月末はその作業をしなければならない。

②変わらない

- ・月末に給付の範囲を超えているかどうか判断する手間(入力しなおし)が増えたが、長崎市に提出するピンクの紙を書く手間は減ったので、全体としてはあまり変わらない。

③事務負担が減った

- ・旧レセコンでは計算に手間がかかったが、新しいレセコンを導入して、負担は著明に軽減しました。また、当初は受給者証持参の方が多くなく、しばらく(数ヶ月)は、払い戻しなどで負担増でした。
- ・申請書(ピンクの紙)に記入する手間がなくなった。

6、長崎市の「現物給付」についてどう思いますか？

	回答数(人)	%
①非常に評価している	15	57.7%
②評価している	10	38.5%
③どちらでもない	0	0.0%
④あまり評価していない	0	0.0%
⑤全く評価していない	1	3.8%
合計	26	100.0%

①非常に評価している15名(57.7%)、②評価している10名(38.5%)と評価している、が25名96.2%とほとんどであった。

一方1名の方が⑤全く評価していないと回答。「医療費が上昇している折、無料はダメ、国全体として1割の患者負担ならOK」というご意見であった。

7、他の自治体での実施についてどう思いますか？

	回答数(人)	%
①他の市町村でも実施して欲しい	7	26.9%
②長崎県全域で実施して欲しい	4	15.4%
③国として実施して欲しい	13	50.0%
④特に実施して欲しいとは思わない	0	0.0%
⑤その他	2	7.7%
合計	26	100.0%

①他の自治体でも実施して欲しい7名(26.9%)、②長崎県全域で実施して欲しい4名(15.4%)、③国として実施して欲しい13名(50.0%)と、国としての実施を望む意見が多かった。

一方、⑤のその他と回答された方は、問6と同様「無料ではなく1割負担が妥当…」との意見や「制度として実施されるのがよいと思うが、各自治体の状況もあるので、よくわからない」との意見であった。

8、県の「補助金減額」方針(現物給付制度やそれに近い制度を採用する自治体への補助金減額)に対してどう思いますか？

	回答数(人)	%
①利用者にとって非常に良い制度なのに、補助金を削減するのはおかしい	21	80.8%
②県の方針なので、補助金の削減はやむを得ない	0	0.0%
③どちらともいえない	3	11.5%
④その他	2	7.7%
合計	26	100.0%

県の「補助金減額」方針に対する意見は、①利用者にとって良い制度なのに、補助金を削減するのはおかしいが21名(80.8%)と一番多く、次は③どちらともいえない3名(11.5%)、④その他2名(7.7%)であった。

④その他には、「国が国保交付金をカットするので、県として困るのは当然。県全体の財政を考えると、市の分カットは当然」とする意見。一方で、「子どもを大切に育てるといふ社会全体の意志を考えていない措置と考えます」という意見が述べられていた。

9、自由意見欄には次の意見が記載されていました。

- ・削減問題は、「子どもを育てる親を支える」「子育てのしやすい…」などといいながら、長崎市の補助金を減らすなんて、時代と逆行していると思います。①800円の一部負担もいっそなくしたらどうでしょうか？②800円を超えない人は、制度の対象になっていないので、月末に超えている人と、超えない人を分けて、コンピューターの入れ直しが必要です。これが面倒です。
- ・市と県の対立のごとく言うのはおかしい。国が全国の子ども達にどのように考えるかで決まること。老人の医療費の3分の1でも、子どもにまわせれば良い。子どもはすべて無料になる。
- ・最低6歳までに対象年齢を引き上げるべき。
- ・子育て支援の立場より、所得のない（高校生まで、あるいは投票権のない）年齢の人の負担を軽くすべき。2割（～3歳未満）・3割（3歳～）を1割とか。国の未来をもっと考えるべき。
- ・国の制度自体を変えるように要望すべきだ。
- ・現物給付の年齢の引き上げ
- ・「現物給付制度」について内容を理解していない方が多い。
- ・こういったとりくみの一つ一つが積み重なって、少子化対策になっていると考えます。
- ・手続き上煩雑なので、全国無料にしてもらえれば…（長崎市在住の6歳以下の児 など）
- ・医療費助成制度を充実させ、利用者が安心して子育てできる国になってほしいです。
- ・子育てを支援できる医療環境を作っていくべきである。
- ・少子化時代に対する一つの改善策だと思います。安心して子育てできるように、全国での実施をお願いします。
- ・ピンクのカードの大きさがカードサイズ位が好ましい!!大きすぎて場所をとってしまいます。

長崎市の現物給付についておたずねします。ご記入にあたって裏面をご参照ください。

1. ご記入者の年齢 () 歳
2. お子さんの数 () 人 お子さんの年齢… (歳・ 歳・ 歳・ 歳・ 歳)
3. 長崎市は平成19(2007)年4月受診分から、病医院・歯科医院窓口で「福祉医療費受給者証」(ピンク色)を提示して自己負担分だけを支払えばよい「現物給付」になりましたが、ご存知ですか？
①知っている ②知らない
4. 長崎市の「現物給付制度」実施についてどう思われますか？
①非常に評価している ②評価している ③どちらでもない ④あまり評価していない ⑤全く評価していない
→「④あまり評価していない」「⑤全く評価していない」とお答えの方は、よろしければその内容をお書き下さい
()
5. 長崎県内で「現物給付制度」が実施されているのは長崎市のみです。他の自治体での実施についてどう思われますか？(複数回答可)
①他の市町村でも実施して欲しい ②長崎県全域で実施して欲しい ③国として実施して欲しい
④とくに実施して欲しいとは思わない ⑤その他 ()
6. 長崎市の「現物給付制度」を利用するには、「福祉医療費受給者証」(ピンク色・長崎市発行)が必要ですが、お持ちですか？
①持っている ②持っていない
7. 問6で「①持っている」とお答えの方におたずねします。長崎市の「現物給付制度」を利用して(病医院、歯科医院窓口)にピンク色の「福祉医療費受給者証」を提示して)お子さんが病医院を受診されたことはありますか？
①受診したことがある ②受診したことがない
8. 問7で「①受診したことがある」とお答えの方におたずねします。
(1) 平成19(2007)年4～12月(9ヶ月間)に受診した日数はおよそ何日ですか？現物給付対象のお子さん(小学校入学前で「福祉医療費受給者証」(ピンク色)を持っている子)のうち、2人までのお子さんについてお答え下さい
1人目 ①1～2日 ②3～5日 ③6～10日 ④11日～20日 ⑤21日以上
2人目 ①1～2日 ②3～5日 ③6～10日 ④11日～20日 ⑤21日以上
(2) 「現物給付制度」を利用して、どのように感じておられますか？(強く感じていることから最大3つまでお選び下さい)
①助成分を戻してもらう手続きがなくなったので、助かっている
②病医院、歯科医院窓口での支払う金額が少なくなったので、助かっている
③調剤薬局での支払いがなくなったので、助かっている
④助成分を戻してもらう手続き漏れがなくなり、助かっている
⑤少額の助成分でも受け取ることができるようになったので、助かっている
⑥その他 ()
9. 県は、今回の長崎市のように「現物給付制度」を実施する自治体や、大村市のように現物給付に近い制度を実施している自治体に対して、今後県からの「補助金」を減額する方針です(長崎市に対しておよそ1億円のカット予定)。これについてどう思われますか？
①利用者にとって非常に良い制度なのに、補助金を削減するのはおかしい
②県の方針なので、補助金の削減はやむを得ない
③どちらとも言えない
④その他 ()
10. 長崎市の「現物給付制度」や子どもの医療費助成制度についてご意見・ご感想がありましたらお書き下さい

1. 主な診療科をお選び下さい。

- ①小児科 ②小児歯科 ③皮膚科 ④耳鼻咽喉科 ⑤その他 ()

2. 長崎市は平成19(2007)年4月受診分から、医療機関窓口で自己負担分だけを支払えばよい「現物給付」になりました。「現物給付」を利用している保護者の方の反応はどのように感じておられますか？

- ①歓迎している ②まあまあ歓迎している ③反応はほとんどない ④分からない

3. 「現物給付」の導入で、保護者はどういう点が助かっていると思われませんか？(強く思われていることから最大3つまでお選び下さい)

- ①助成分を戻してもらった手続きがなくなったこと
 ②医療機関窓口で「自己負担金」だけを支払えば良くなったこと
 ③調剤薬局での支払いがなくなったこと
 ④申請漏れがなくなったこと
 ⑤少額の助成分も受け取れるようになったこと
 ⑥その他 ()

4. 「現物給付」の導入で、患者の受診に変化がありますか？

- ①ある ②ない

→「①ある」とお答えの方は、よろしければその内容をお書き下さい

[]

5. 「現物給付」の導入で、医療機関の事務負担(受付、請求など)はどうなりましたか？

- ①増えた ②変わらない ③減った

→「①増えた」または「③減った」とお答えの方は、よろしければ具体的にご記入下さい

[]

6. 長崎市の「現物給付制度」実施についてどう思われますか？

- ①非常に評価している ②評価している ③どちらでもない
 ④あまり評価していない ⑤全く評価していない

→「④あまり評価していない」「⑤全く評価していない」とお答えの方は、よろしければその内容をお書き下さい ()

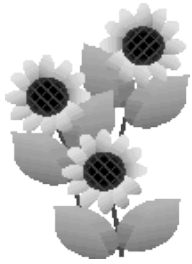
7. 長崎県内で「現物給付制度」が実施されているのは長崎市のみです。他の自治体での実施についてどう思われますか？

- ①他の市町村でも実施して欲しい
 ②長崎県全域で実施して欲しい
 ③国として実施して欲しい
 ④とくに実施して欲しいとは思わない
 ⑤その他 ()

8. 県は、今回の長崎市のように「現物給付制度」を実施する自治体や、大村市のように現物給付に近い制度を実施している自治体に対して、今後県からの「補助金」を減額する方針です(長崎市に対しておよそ1億円のカット予定)。これについてどう思われますか？

- ①利用者にとって非常に良い制度なのに、補助金を削減するのはおかしい
 ②県の方針なので、補助金の削減はやむを得ない
 ③どちらとも言えない
 ④その他 ()

9. 長崎市の「現物給付制度」や子どもの医療費助成制度についてご意見・ご感想がありましたらお書き下さい。



乳幼児医療長崎ネット

乳幼児医療費助成制度の改善と国による無料制度創設を求める長崎ネットワーク

乳幼児を持つ親たちにとって、子どもの医療費の負担は大きな課題となっています。しかし全国的にみると自己負担のある地域もあれば、乳幼児は無料という地域もあります。また対象年齢もバラバラで地域によって大きな格差があることを御存知でしょうか。また受給方法も、現物給付と償還払いの大きく分けて2種類があり、手続きが終わるまでの手間や負担なども自治体によって違うというのが現状です。

私たちは、安心して子どもを産み、育てることのできる社会への第一歩とするために、県・市町村に対しては乳幼児医療費助成制度のさらなる拡充を求め、国に対しては乳幼児医療費無料制度の早期創設を目指します。ぜひ私どもの趣旨にご賛同、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

活 動 内 容

乳幼児医療費助成制度に関する情報を広く県民に提供する。

宣伝や世論づくりの取り組み（署名やインターネットの活用など）を行う。

実態を把握するための各種調査・アンケートを行う（自治体アンケート、保護者アンケートなど）。

県や市町村の乳幼児医療費助成制度の改善を求める上で、議員や行政、関係団体との懇談を行う。

「乳幼児医療全国ネット」などと連携して、国による乳幼児医療費無料制度の創設を求めていく。

子育てに関するシンポジウムや講演会などで社会的にアピールし、幅広い賛同が得られる取り組みを行う。

参 加 ・ 支 持 賛 同 団 体

NPO法人 子育てネットながさき
長崎育児情報誌ちゃんぼん倶楽部
長崎市保育会
長崎県地域婦人団体連絡協議会
長崎県商工会女性部連合会
新日本婦人の会長崎県本部

長崎県看護協会
長崎小児歯科臨床医会
社団法人 日本助産師会長崎県支部
長崎県民主医療機関連合会
長崎県保険医協会

長崎県小児科医会
(乳幼児医療費助成制度の改善のみ)
J A 長崎県女性組織協議会
長崎県ろうあ福祉協会

(2005.6.8現在)

くわしい活動などはホームページで！！

http://www.geocities.jp/children_md_nagasaki/



●お問い合わせ●

〒850-0056 長崎市恵美須町2-3 フコク生命ビル2F 長崎県保険医協会内
TEL 095-825-3829 FAX 095-825-3893 E-mail gotou@doc-net.or.jp